

# 平成 28 年度 国立大雪青少年交流の家開所 50 周年記念事業 「北海道青年団体協議会青年大会」事業報告書

## 1 事業実施の背景

本事業は、平成 28 年 10 月 16 日に迎える開所 50 周年の記念事業の一つとして、計画したものである。

交流の家は、昭和 41 年 10 月の開所当初は、青年団体の利用が最も多くを占めていた。その後の高校進学率の上昇とともに、生徒・学生の利用が多くなるものの、北海道における青年団体の主要な研修が、旧大雪青年の家で開催されるとともに、青年の家の運営においては、北海道青年団体協議会から多方面の支援をいただいていた経緯がある。

北海道青年団体協議会の加盟団は、年々減少しており加盟団の持ち回りによる青年大会（スポーツ大会）の開催が加盟団にとって負担と感じている現状を踏まえ、青年大会の開催を交流の家に誘致し、全面的な運営協力のもとで開催することで、青年団の負担を軽減しその間に青年大会の今後の運営方法について考える期間を設けるとともに、交流の家が青年の健全な育成・交流の場として発展し、役割を果たしてきた歴史を振り返り、今後も北海道における青年の交流の中心として発展していくこと必要があるとの認識のもとに、2 年前から計画を進めてきたものである。

## 2 事業趣旨

この大会は、全道の青年が相集い体育大会を開き、これを通して相互に親善，研鑽を深め、相携えて健康で文化的な生活を樹立し、健全な郷土社会の建設に寄与しようとするものである。

3 主催 北海道青年団体協議会，独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家

4 後援 北海道，北海道教育委員会，美瑛町，美瑛町教育委員会 他

## 5 事業概要

- ・期日 平成 28 年 7 月 2 日（土）～ 3 日（日）（1 泊 2 日）
- ・会場 国立大雪青少年交流の家
- ・対象 北海道青年団体協議会加盟の青年，本大会に賛同し参加を希望する一般団体
- ・定員 特に設定はしないが，100 名程度の参加を想定した。

## 6 広報

北海道青年団体協議会の加盟団を通じての広報，交流の家及び青年団事務局から交流の家近隣（特に旭川周辺）や交流の家の利用団体など一般青年団体等へ参加の広報を行った。

## 7 参加者人員・類型

参加者 選手団 91 名

参加競技内訳：	バドミントン	3 チーム・11 名
	卓球	3 チーム・13 名
	フットサル	4 チーム・30 名
	混合ソフトボール	3 チーム・36 名
	応援団	1 名

参加区分内訳： 同協議会加盟団 33名  
一般参加 58名

## 8 事業日程・内容

### (1) 日程

< 1日目 7月2日(土) >	< 2日目 7月3日(日) >
9:00 受付	9:30 交流競技
10:00 開会式	13:00 閉会式
13:00 競技	
18:30 交歓会	

### (2) 概要・運営のポイント

主催としては北海道青年団体協議会であるが、交流の家の運営への位置付けとしては、従来加盟団が担っていた「実行委員会」にかかる業務を担当し、青年団事務局との業務分担を行った。

### (3) 各プログラム内容

#### ① 7月2日(土)「開会式」

北海道上下川総合振興局長、北海道教育庁上下川教育局長、美瑛町長、美瑛町教育委員会教育長などの来賓を迎えて開催された。

祝辞として、激励の言葉(北海道知事及び北海道教育委員会教育長の祝辞を含む)、美瑛町で開催されることにあたっての歓迎の言葉などが披露された。

青年の火の入場や、選手宣誓など、歴史ある大会であることが象徴される進行、厳かな雰囲気の中、会は進行され、最後に来賓を含めた約100名の参列者による記念撮影が行われ会は終了した。



北海道青年団体協議会 猪股会長 挨拶



北海道上下川総合振興局 渡辺局長 激励の言葉



選手宣誓



50周年キャラクターを印刷した記念品

## ② 7月2日（土）「競技」

実施競技は、男女混合ソフトボール、卓球、バドミントン、フットサルの4種目で行われた。（卓球とバドミントンは団体戦と個人戦で実施）本競技は、全国青年大会の北海道予選も兼ねており、交流の中にも真剣勝負、熱戦が繰り広げられた。

参加チーム募集当初、野球と9人制バレーボールも想定しており、交流の家施設では全て開催することが難しく、1年前から美瑛町の施設（スポーツセンター及び丸山野球場）を確保していたが、競技種目が減ったことにより、全種目を交流の家で開催することが可能となり、結果的に相互の参加者が別の競技を見学するなど、競技の合間の選手間交流が活発に行われている様子が見られた。

当日はあいにくの天候（13時ころからの雨天）により、ソフトボールは1試合目途中の5回まで実施した時点で中止、室内のスポーツ交流に切り替えた。

青年団加盟団と一般参加者の試合を通して、交流が図られ、青年団の活動への理解も深められる効果もあった。



男女混合ソフトボール



卓球



バドミントン



フットサル

## ③ 交歓会

遠方からの青年団OBなども参加し、青年団加盟団それぞれの活動の情報交換や、一般団体参加者との情報交換を通して、青年団の活動への理解が深化された。一般参加者からは「北海道における青年団の活動を初めて聞いて、知ることができてよかった」との声も聞かれた。

④ 7月3日（日）「交流競技 キンボール」

全競技を1日目で終了したため、2日目は参加者による「キンボール」交流会を開催した。参加者の中には、キンボールを経験したことがない選手も多く、交流の家職員による指導での体験で「様々なチームの作戦、協力が必要で、面白いスポーツ。ぜひ地元でも取り入れてみたい」との声も聞かれた。



⑤ 7月3日（日）「閉会式」

美瑛町教育委員会教育長を来賓に迎え、競技の結果発表があり、来賓からは講評、今後の青年団活動の発展を期待するとの言葉があり、来賓発声による万歳三唱が行われ、青年の火退場により会が閉められた。



表彰式



交流の家 阿部所長あいさつ



美瑛町教育委員会 千葉教育長あいさつ



青年の火 退場

## 9 事業の成果

交流の家で開催，職員が運営に全面的支援を行うことで，加盟団の運営に関する負担は軽減でき，競技実施に集中する環境は整えられていた。

また，全道のほぼ中心に位置し，全道の加盟団が参加しやすい立地や，運営上会場が集中して開催できるコンパクトな大会を実現できたことで，近隣の旭川市や，上富良野町，開催地の美瑛町からの一般青年団体の参加が呼びこめたことで，昨年度以上の参加者があり，青年団への理解促進にもつながったと考える。

## 10 事業の課題

今後の課題として，来年度の交流の家での継続開催が決まっているわけではないが，まずは主体である加盟団の参加者を増やすことは必要であると考え（札幌参加者なし，日高1名）。本来の趣旨である青年団の活動活性化を考慮すると，加盟団の参加が少なかった要因を事務局と協力して分析し，より多くの加盟団参加者を増やすことで，青年団活動の活性化を図っていくことが必要である。

また，交流の家での開催となった場合には，一般団体への案内について，早期に全道に向けて発信することで，さらに多数の青年のスポーツ交流に繋げていくことは十分可能と考える。

このことを通して，青年大会に限らず，交流の家を会場とした青年のスポーツ交流の場を実現し，知名度を上げていくことで交流の家の利用促進にも繋がるものと確信する。

